

様式 2

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|--|
| 1 | 委員会名 | (平成25年度)第2回 安曇野市農業農村振興計画推進委員会 |
| 2 | 日 | 時 平成25年9月10日(火) 午後2時00分から午後4時20分まで |
| 3 | 会 場 | 三郷公民館 1階 講堂 |
| 4 | 出席者 | 佐藤委員長、板花副委員長、池上委員、岡山委員、久保田委員、鈴木委員
丸山(秀)委員、丸山(光)委員、三澤委員、一志委員、深澤委員、飯田委員、川上委員
渡辺委員、帯刀委員、白澤委員、唐木委員 |
| 5 | 市側出席者 | 山田部長、曾山課長、丸山局長、鶴見課長補佐、宮澤課長補佐、太竹課長補佐
宮島係長、上野係長、等々力係長、樽沼再生協次長、沖係長、奈良澤副主幹 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 平成25年9月18日 |

協 議 事 項 等

- | | | |
|---|-------|--|
| 1 | 会議の概要 | (1) 開 会 (曾山課長)
(2) あいさつ (佐藤委員長) (山田部長)
(3) 協議事項
・平成24年度 取組状況の点検・評価、提言[意見交換]
(4) その他
・今後の日程について
・凍霜害、雹害の市対応 (山田部長)
(5) 閉 会 (曾山課長) |
| 2 | 協議事項 | (1)平成24年度 取組状況の点検・評価、提言[意見交換] (事務局説明)
[委員長]
事前に提出された52件の意見がある。あらかじめ調査部会で検討し対応策を提示し、特に意見交換をしてほしいと思われるものが調査部会で整理されているので、それについて意見を出していただき、新たな意見があれば残った時間で、さらに積極的に出していただきたい。
推進委員会としての評価・提言とし、事務局で最終案をまとめてもらい、第3回委員会で最終案を討議する。

◎農業後継者の確保・育成について
[委員]
・人口が10万になる安曇野市では、大学が必要であると思う。長野県下全て調べると、北から南まで、大きい市で大学が無いのが当市だけである。
・職農教育という言葉自身が、十分に浸透していないのが現実かなと思う。新たに職農教育という視点からプログラムを作り、入っていくには、おそらくものすごいエネルギーと膨大な時間を要すると思う。キャリア教育の中に職業体験の様なものがあり、そこへ、職業としての農業をしっかりと認識できるよう、手の付くところから、農家の情報を提供していくことが第一歩。
・学校教育の中へ職農教育を取入れていくことは、大変だとお聞きした。また、現在のカリキュラムでも大変の様であるが、教育委員会でも推進していこうとしており、校長会と行政で一緒になり形あるもの(教材)を作成したらと思う。
[委員長]
・私は農家の若い人たちと付き合いがあるが、いままでイベント的なことを行い実感するのは、生産現場を見ることがない。いまの意見を聞き思うのは、どのように教育に応用できるのか、むしろ先生の知恵として考えてもらえるのではないか。校長先生も良いが、現場の先生も良しかと思う。
[委員]
・職業としての農業、農業を職業として生きていく大変さを実感している人がほとんどいないと思う。農業に親しむことは良いが、職業として成り立たせる。その難しさをわれわれは、もう少し考えていかなければ |

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

[委員]

ればいけないと、私は思う。地域にはIターン、新規就農者がかかりいる。その方からも意見を聞いて、考えていけばどうかと思う

[委員長]

・職農教育は、計画を策定する中で造られた言葉である。いま指摘された点は、百も承知で策定している。切実なもっと将来なんとかならないかという苦肉の策であり、その気持ちを察してほしい。

[委員]

・家族が小家族になり、農業後継者が出ないと思う。これから努力しないといけないのは、大家族主義であり、そういうものを作っていく必要がある。総合的に一家の暮らしが成り立つ様な方向性を探ったらいかがか。

◎農のある暮らし充実について

[委員]

・学校の実情を見ても、農業に係わる活動というのは結構ある。米作りが社会科の学習の中で、5年生を中心に行われているが、最初とお尻しか見ていない。

食育は盛んに行われているように見えるが、深まっていないと思う。ベース課程が飛んでしまい、消費者としての観点だけであり、忙しい中でも係わっていただけるような人がいれば、もっと深まる。生産するという実体験とか、感覚的なものを子供に養っていかないといけないのではないかと。いまの教育は、かなりの部分で体感的なものや感覚的なものがない。そこを大事にしていくのが、食農教育の一番のベースになる大事なところ。それがこれからの子供たちを育てるときのベースになる。

[委員長]

・子供たちだけでなく大人も含めて、長野県は質では全国トップの米作りの地域であり、安曇平が全県で断トツ、ナンバー1の米生産地。ありがたみを認識されているのかと思う。学校教育だけでなく、一般でも認識してほしい。委員会もその役割があるのではないかと。

[委員]

・農村生活マイスターでは、各施設毎に子供たちに数回、食育という活動を広げている。将来の安曇野の子供たちに、伝統の味、地産地産”食”を広めていきたいし、教えていきたいを念頭に続けている。小・中学校はとても忙しいようで、受け入れ体制がなかなか難しいのではないかと。学校の行事とか、カリキュラムの中に組み込むことが時間的に大変そうであると感じる。

子供たちに安曇野の味、伝統食、日々の食事を大事にしてほしい。子供たちの若いお母さんの世代に残していかなければいけないと、活動を通し感じる。若いお母さんに、どのように残していくか、この委員会で話していただいたり、意見をいただき参考にしていきたい。

・地区の育成会で、若いお父さん、お母さんが子供たちと活動することが大事だと思う。その地区である程度、親から見本を見せ子供に教えることが良いのではと思う。

・農業塾に入った目的のひとつは、自分で大豆を蒔いて豆腐を作って食べるのが一番の目的。努力をすれば、家族はみんな理解してくれると実感。

◎6次産業化等の推進について

[委員]

・生産者が消費者に、どういう点でこれを作ったのか説明しながら売ると、もっとリピーターが増えるのではないかと考えている。

・玄米を直接消費者に食べてもらいたくて、おにぎりにして配った経緯がある。私たちはできるだけ試食してもらおう。りんごジュースも、ビンを棚に置いて陳列しただけでは、二度と買ってもらえない。試飲も、重要と思っている。

6次産業は、いまの段階ではレベルが高すぎ、資金を導入するところまでいかないのが現状。1年間に3千万円以上の売上げがないと、補助金の利用ができないという難しいハードルがある。安曇野市内にはジュースの加工センターがない。市内へ作ってもらいたい。

・私は去年から6次産業を始めて、加工品を作り販売を始めた。国は大きい6次産業を目指している様で個人で6次産業をやっている者は到底入っていけない感じであった。6次産業を推進するのであれば、市としてももう少し小さい加工を推進している人たちに、補助金なりアドバイスをお願いしたいと思う。

また、生産者が6次産業までやることは、とても大きい組織とか同僚の人の手がなければ、6次産業はなかなか出来ない。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

[委員]

・商工会も6次産業に取り組んでおり、商標登録も2つ取っている。国からの補助金も貰い、いわゆる生産者で生産した物を、加工、販売まで持っていくことを、こちらと一緒に考えながらやっている。商工会、観光協会も含めて、6次産業を使いながらどんな商品を開発していくのかを我々、お手伝いさせていただいている。

・生産者が加工して販売するまで、ひとりで行うのはハードルが非常に高いかと思う。観光協会でも商工会と相談しながら、観光客相手に販売している。これも6次産業の内と認識している。こういった形で、地元の商品を、観光客に広く紹介しながら、地元として収益を上げていく。そういう活動を今後も継続していきたいし、他にもいくつか、直接、農家の皆さんと話しをしながら商品開発を進めている部分もある。そういった部分で私どもも貢献出来るところは貢献していきたいと考えている。

◎環境資源の保全・活用について

[委員]

・無農薬の米の栽培を私も3回行ったが、なかなか難しい。毎日水をかけ見に行かないと出来ない。
・無農薬で米を作るのは、完全に無理な注文と思う。いままでも、無農薬でやる人は僅か、合鴨でやる人も聞く。

・米を無農薬で作っているが、ほぼ合鴨に頼っている。2町歩位。合鴨でないと2町歩はきついかと思う。合鴨農法は電気柵で囲うが、お金が少しかかる。合鴨のヒナも毎年買わなければいけない。そのかわり肥料はほとんど入れない。エサを入れれば、鴨がどんどん糞をしてくれる。もちろん農薬も使わない。ただ有害鳥獣対策は必要だが、無農薬で面積を拡大するとすれば、この方法には叶わないのではと思う。

問題は育てた合鴨をどうするのかであるが、合鴨は優れた肉になる。食農教育ではないが、小学校で子供たちに教えてもいる。合鴨農法には良い面があるので、薦めてもらえるなら、推進していただきたい。

[委員長]

・政策的に支援があったらと思うことは何か。

[委員]

・8月の出穂前に合鴨を引上げる。羽数が増えてくるといろいろな問題が起きてくると思う。池を整備してもらえたら、取組みやすい。

◎地域「核」の形成について

[委員長]

・松本新興塾をやっているが、その特徴は、地域の営農リーダーを育成するプログラムとして2年間行う。これからの営農リーダーは、消費者目線でないといけない。そういう感覚がもてるように、理屈と実践の両方を、塾の2年間の中で育成し、修了した後に備える。

塾生は農家であり、農業関係者プラス自治体でやっているトレーニングセンター的な塾。

[委員]

・りんごの新しい化栽培の苗木補助があるが、りんご農家の立場から、苗木を栽培しているほ場に補助してもらいたい。市外先端農家の話から、各りんごほ場に5a程度の苗木ほ場が必要であり、ほ場がないと、新しい化栽培の継続が難しくなる。

これが一点と、振興計画から桃という言葉が一切消えてしまった。りんご、なし、ぶどうとあるが、桃という項目がまったくない。サラダ市では、りんごのつがるは地元のどこでも栽培していることもあるが、桃も1品種、10日間で70万円程度売れている。それを考えると桃の項目を取入れ、新しい施策を検討していったらと思う。安曇野市もりんごなり、かなり高級な物は新しい品名で安曇野の名前を付けて販売したらどうか。そのような新しいことに取り組んでほしいというのが意見。ぜひ、検討していただきたい。

[事務局]

・りんごの新しい化栽培の補助についてご提案いただいた。また、検討させていただきたい。

今の市の取組みとして、補助事業がふたつある。新しい化栽培の苗木の補助であり、こちらの方は苗木を生産する時の補助として、育成の段階で農協へ3分の1の補助をし、農家が、その苗木を受取る際に、かなり値引きをした金額で、購入ができるシステム。もうひとつは、農家自身が枝木を購入する際に、市と農協で3分の1づつの補助をしている。それを、育ててもらおうという2つの方式。どちらも、新しい化栽培のりんごを増やすことが目標。

桃という項目を、特に計画に掲載しなかったのは、おそらく策定委員会の中で幾人かは意見を出されたと思うが、りんごとなし、ぶどうについては物流的にかなり市内でも多いという判断ではなかったかと思う。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

◎全般を通じて

[委員]

・黒大豆の生産、米粉の加工所および販売所が欲しい。事務局とともに、新潟の米粉工場を視察に行き、その検討会で、何とかあいう工場が作れたら良いという話しが上がっただけである。生産者も減反で、1反歩約8万円位の収入があるかと思う。麦や黒大豆を私たちも作っているが、稲を作り減反になるというのは、一番収入があるのかと見ている。そういう計画位は立ててもらいたい。

[事務局]

・現状を申し上げると、米粉の市内栽培面積は、農家で作ってくれる面積が右肩下がりの状況。これはひとつには、米粉の製品が高いところがかかなりあり、誰でも簡単に作れて、買ってくれる実需者が確定出来れば国の交付金10aあたり8万円の交付金が付いてくるが、なかなかそこが難しいところ。

いま主流は加工米であり、農家にとっても大体同じくらいの交付金が出る。国からの交付金として、10aあたり2万円の値をつけるメニューになっており、加工米に移りつつある。いずれにしても、現状で米粉を生産しているのが市内10町歩程度。これが潤沢に使用してくれる業者も確保できれば、県へも市から要望していきたい。毎年だが、安曇野市も新規需要米を増やしていきたいので考えてほしいと要望しているが、なかなか上手く推移していない。

[委員]

・減反対策として各個人で米粉用の米を作る指導がないが、その辺はどうなっているか。

[事務局]

・年末に国から、どのくらいの通常米を作っているかという数量が調整されてくる。それを県が受け、市が受け、配分を農家に平等にしている。その中で、新規需要米、加工米は、通常米にはカウントされないいわゆる、減反のカウント。その段階で、作りたいという要望があつて、実需者、買ってくれる方を見つけないと国の交付金が貰えない。計画の段階で、どうしても米粉、新規需要米を作りたいということであれば、計画書に記入いただければ市でも農協と調整し、何とかその分だけ業者に買ってもらえないかの調整は図りたい。大量となると、なかなか難しいところである。現在も10町歩の米粉を作っている農家があるので、そのような取組みをさせていただきたい。

[委員]

・農業体験、観光農園の部分であるが、現在私どもが認識しているのは、りんごのもぎ取り施設の果樹園が4件。観光的に考えた場合、通年何らかの農業体験もしくは、収穫体験が出来るのが一番好ましいのが現状。目標6件などといわず、10件でも20件でも、市内全域で通年通じて何らかの体験ができるような、受入れ体制を整えていただきたい。

一部宿泊施設とタイアップして、受入れされている農家がかかなり市内にあるということは、お聞きしている。そういった施設が特定の施設と農家のタイアップではなく、一般観光客も受けられる様な体制を作ってもらえればと考える。

りんごの木のオーナーであるが、三郷地区のオーナー制度について、昨年が1,630本、今年は凍霜害被害があつたが1,645本、かなり減るのかと危惧したが増えている。反面、堀金地区が凍霜害で受けられず減ってきている。昨年は堀金と合すると1,724本、今年は1,713本ですでに1,700本の大台を超えている。ただ各農家、高齢化が進んでいる。新規需要については受けられない、もしくは自然減を待っているのが実情。りんご農家の後継者問題が解決しないと、なかなか難しい。

農家民泊の部分だが、民泊と民宿を分けた理由がよく判らない。民泊においても、簡易宿泊施設としての登録は必要。宿泊料金、代金としてお金をいただく以上は簡易宿泊施設の登録になる。そうすると、民宿と何ら変わらない。

松川村の農家民泊、いろいろ取り沙汰されているが、聞いているかぎりではつい最近では43件、一度に230名程の受入れが可能。全国的にも教育・修学旅行の世界では非常に注目を浴びていると聞いている。ぜひ、安曇野市も出来れば40件程度、地域でまとまった施設ができればかなり教育旅行のマーケットにおいて、競争力・インパクトのある営業ができるのではないかと。

[事務局]

・農家民宿、民泊について、定期にいつでも泊まれるのかで分けさせてもらった。松川村の数字は、市でも聞いてみたりしているが、農家の中で受入れられる所を、これから検討していきたい。

[委員長]

・農家民宿、民泊そのものの数は寂しい数しかない。農家や公共施設まで絡んで、どのくらいの繋がりがいいのか、いまの話しの中で見直していく必要があるように思う。

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。

安曇野市農業農村振興計画推進委員会 会議概要

協 議 事 項 等

[委員]

・地域のリーダーを作ろうということであるが、私どものわさびの業界にも、専門家、先生みたいな方がわさびの世界ではない。以前に、高校の取組みで生徒、先生がわさびの研究をした様だが、ぜひその様なことを継続してもらったり、専門の大学みたいなものを誘致したり、これからこの委員会のひとつのテーマにしていってもらえば、非常にありがたい。

民泊については、市外の子どもたちが訪れ、わさび漬け作りの体験などを行っているが、地域とか個人では難しい面もあるので、市で御膳立てをしてもらって、他の農家に協力してもらおう形が良い。

米粉の話しでは、自分たちで米粉を作り、全国的に大都市へ米粉を売ろうと考えるから無理な点がある。自分たちで作り、ここで自分たちで売れば、米粉の高いパンも売れる。良い方法があれば考えていただきたい。

・個々には私たちも、農業に接する機会を作り非常に良くやっている。親子を呼んで、田んぼの中に入ってもらい生き物の調査とか、高校生、県の農大生に研修に来てもらい、こういう現状を把握しながら、組合職員と一緒に作業してもらおう。微力ながらやっているが、一番の問題は何だろう、このように騒がれて何とかしないといけないのはどこなんだろうと常々、私も考えている。

親子の場合、お父さん、お母さんが熱心である。共に来て田んぼの中へ素足で入る。その時に、話しをしているが、なかなかそれが続かない。学校の先生も熱心な先生は、米の出来方を聞きに半日くらい来る。そういう人たちはいるが、全体的に不足していると思う。これをどのように束ねていくか。実のところ、大学生になると次の段階、就職に入り、それを受入れるところが必要。組合でも何年に1回かは採用するが、毎年採用することが出来ない。いろいろな資金面で不可能である。そこをどうクリアしていけば良いか。いつも委員会に来て考えているが、こういうことだと言えないのが現状。地道にやっている人もいるし、活動している人もいる。小さな力が少しずつ大きくなっていくのもひとつのことと考えている。このまま続けていきたいと思うので、よろしくお願ひしたい。

・安曇野市の農業農村振興計画の位置づけ、農業に取組む意識レベルが相当違うと思う。専門学校の必要性があったが、県の大学から一番素朴なものは、各市町村レベルの農業学習塾まで、いろんな意識レベルがある。

6次産業でも個人ではつらいが、組織としてみれば可能。私が思ったのは、農業の意識レベルを区分けし、ターゲットを決めた上でそれぞれの事業に取組む。

可能性があったと思ったのは、総合的な6次産業はこれから大事になると思うが、意識レベルがいかんせん違う。個人で6次産業に取組む大規模の人もいれば、そうでない人もいる。異業種間の交流を委員会でもっと進めて、個々の意識レベルで対応できないものについては、特に農業生産者は発想が貧弱のところがあり、そういうアイデアを観光協会、商工会からいただき、委員会で練って異業種間交流を積極的に進めていく中で、可能性・現実性のあるプランが出せれば良い。農業の意識レベルを区分けし、ターゲットを絞った上で再検討してみることも必要。

・T P P問題、特に農業の5品目問題が不安定で、どう決まるか。これが今年中の大きな念願。もう一点は、国の政権で攻めの農業という問題で、約4～5項目の主要課題が出てきている。そういった課題に対する対応の仕方が、これから安曇野市の農業振興上、重要な視点になる。

話題になっている、地域リーダーの育成強化、直接に全知全能、農業関連を含めて組織づくりをしながら5年くらいの組織体制で、市なり、議会へ提言していく。地域の農業者なり関係団体に、ひとつの体制づくりをしてもらうような大きな組織体制を再構築する必要があるのではないかと実感する。将来の安曇野市の農業、水なり食なりという大きなテーマに向かって世界は動いておりそういった視点を含め、再考いただきたい。

[委員長]

・気がついたことがあれば事務局へ個々に意見を出して、事務局と繋がりを維持してほしい。

以上

※会議概要は、原則として公開します。会議終了後、2週間以内に作成しホームページへ掲載すると共に閲覧に供してください。

※会議を非公開又は一部非公開とした場合は、その理由を記載してください。